

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

SK2021096

S2021052

神機構-1117

③ 施設名等

名称：	手まり学園
施設長氏名：	近堂 瑞穂
定員：	44名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	2009/7/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人輝雲会
職員数 常勤職員：	22名
職員数 非常勤職員：	11名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	7名
有資格職員の名称（イ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	里親支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	自立支援担当職員
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	6ユニット
施設設備の概要（イ）設備等：	ホール、会議室、心理室、静養室、地域交流室、親子訓練室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<理念>

私たちは全ての子どもに慈愛の心を持って大切に育てます。

<養育指針>

1. 子どもの思いを聴く、受け止め、理解します。
2. 安全、安心な場所を整えます。
3. 子どもが希望のある将来を創り出すために職員は応援します。

⑤ 施設の特徴的な取組

○園内で、煎茶教室や日本舞踊・殺陣・ギター教室、英語教室、手芸教室、美術教室などの文化教室を開催し、子どもたちは興味のある教室に参加して、楽しみながら礼儀を身に付け、感覚や創造性を育てている。文化活動での成果は、園のイベントや地域の方や卒園児と一緒に楽しむ「手まりパーティー」などで披露したりしている。一年を通し、バーベキューやキャンプ、クリスマスパーティーなど、子どもたちがわくわくする楽しい行事を開催している。園庭は、地域の子どもたちにも開放している。○昨年度、管理職以上の職員が集まり、新しい理念と養育指針を策定している。また、手まり学園の短期・中期・長期計画を策定し、来年度は家庭養育支援センター（里親支援センター）の設置、再来年度は地域小規模児童養護施設の設置などを具体的に決めている。長期計画には、施設の小規模化や地域分散化について具体的な数値目標をあげ、「手まり学園変わります」を宣言している。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/6/13
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/2/20
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和2年度（和暦）

⑦総評

○手まり学園は、2つのユニットがひとつの棟になっており、八角屋根の大ホールを中心に3つの棟がある。それぞれが小舎制をとり、同じ棟のユニットは行き来ができるようになっている。ひとつのユニットに3～18歳までの子どもが生活を送っている。居室には机やベッドがあり、個室のため、それぞれが好みのぬいぐるみを置いたり、アイドルのポスターを貼って、安心できる自分の空間を作っている。自然に恵まれ、園庭も広く、遊具や砂場、花壇、サッカーやバスケットボールができるコートなどがあり、子どもたちは、のびのびと身体を動かして、毎日の生活を楽しんでいる。

○園の養育指針に「子どもの思いを聴く、受け止め、理解します」を置き、職員はまずは子どもの思いを肯定し、なぜそうなのかを聞く姿勢をとっている。就寝時には「すぐ寝なさい」ではなく、あと30分で終わるからテレビを見たいという時には、柔軟に対応している。また、暴力があった場合は、暴力はいけないことを話す、何が嫌で暴力を振るったのか、何があったのかを聴き取り、原因を言語化して、相手の子とも話し合っ解決している。

○小学生（低学年・高学年）、中・高校生と、年代別に子ども会議を開催し、子どもたちがそれぞれの課題に対し、自分たちで考えている。ユニットでレクリエーションをやりたい、映画を見に行きたい、ミカン狩りに行きたいなど、子どもたちが話し合い、それを受けて実施できるようにしている。ケンカをした、物を壊したなど、失敗をしてしまった時は、「何があったの?」「どうしたの?」と話を聞き、原因を言葉で表現するよう促し、その時の自分の気持ちの整理を行い、感情のコントロールができるのを見守っている。

○中学入学時や就職時は、自分の生き立ちを考えさせられる時期でもある。今までは個人のライフステージをタブー視していたところがあったが、職員の中から、自分の生き立ちを知ることは大事なことという意見が出たことがきっかけで、園の方針として、生き立ちを振り返る支援に取り組んでいる。

○自立支援担当職員やユニットの職員が中心になり、進学を希望する子どもに情報を提供している。中学生になると、どこの高校に行きたいか、高校になると、卒園後就職か進学するかを相談しながら決めている。児童相談所や学校と連携を取りながら、大学や専門学校などへの進学を希望する子どもには、生活の場や金銭面など、生活の仕方について具体的な話し合いを行いながら、本人に決めてもらうようにしている。

○高校生になると、卒業を見据え、園内の宿泊施設を使って一人暮らしを体験し、自分でお弁当を作っている。卒園後は、自立支援担当職員や元担当職員と連絡を取り、園の行事に参加したりしている。一人暮らしの子どもには、時々園から食料品を送ったり、園に遊びに来た時に持たせたりしている。音信不通だった子どもがホームページを見て、遊びに来てくれたりすることもあった。クリスマスに、子どもたちにケーキを買ってきてくれる卒園生もいる。

○「みんなで一緒に食事」をモットーに、コロナ前はホールで、コロナ禍では、一時は各ユニットで一方向を向いた黙食であったが、現在はユニットごとにコミュニケーションを取りながら楽しんで食事を摂っている。残食の状況や子ども会議での希望を聞き、給食会議でメニューを検討している。第3日曜日は自由献立とし、各ユニットで、食べたいメニューを考え、買物、調理、片付けを行っている。大きい子どもは直接調理をしたり、小さい子どもはできることを手伝いながら、皆で行っている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

学園が目指している方向や支援について評価していただいたと思っております。職員一同、実践力を高めていけるよう努力していきます。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

これまでの理念や養育指針はわかりやすく、具体的な支援につながらなかったため、昨年度、管理職以上の職員が集まり、新しい理念と養育指針を策定している。新しい理念や養育指針は、ホームページや広報誌「手まり学園だより」に掲載する他、月2回開催する職員会議で職員に説明している。職員会議開催時は、冒頭で理念や養育指針を唱和している。子どもたちには、年代別子ども会議の場で話している。家族には、面会時や交流の際に伝えている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【コメント】

社会福祉事業全体の動向については、園長が児童養護全体の勉強会に参加したり、WAM NETから国の動向を入手したりして、具体的に把握、分析している。また、必要な情報は、月2回開催する職員会議や、主任、副主任、専門職が参加する運営会議の場で、職員に伝えている。説明の中で、児童養護施設が変わっていくことを、職員に伝えるようにしている。地域に向けて、子ども食堂を開催し、地域とのコミュニケーションを深めていくことを予定している。

② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

月2回開催する運営会議において、経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況などの現状を分析して、具体的な課題や問題点を明確にしている。今年度の重点課題として、リスクマネジメント、情報の共有、メンタルヘルスをあげている。内容は職員会議で職員に周知し、あらためて理念に基づいて支援が提供できているかを確認している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

手まり学園の短期・中期・長期計画を策定し、来年度は家庭養育支援センター（里親支援センター）の設置、再来年度は地域小規模児童養護施設の設置などを、具体的に決めている。また、長期計画に施設の小規模化、地域分散化について具体的な数値目標をあげている。手まり学園の短期・中期・長期計画は、事業計画書に記載して、年度初めの職員会議の場で、職員に配布、説明し、周知を図っている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

単年度の事業計画は、手まり学園の短期・中期・長期計画を踏まえて作成している。事業計画には、手まり学園のこれからの進む方向について示し、職員全体で共有するよう努めている。職員の意識を統一するために、職員会議の他、運営会議やホーム長会議、ユニット会議をそれぞれ月2回開催している。ユニット会議と職員会議は同日に開催している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○	

【コメント】

前年度の10月、「手まり学園変わります宣言」のアンケートを職員に実施して、職員の意見を集約している。それを踏まえ、園長が事業計画をまとめている。事業計画は、職員会議で内容を説明している。また、運営会議で事業計画の進捗状況を確認している。今後は、子どもたちにもアンケートを実施して、子どもたちの声も、計画に反映できたらと考えている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

事業計画は今年度より、「子どもの事業計画」(A4・1枚)にまとめ、子どもたちに説明している。子どもたちへは、月1回開催する小学校低学年、小学校高学年、中・高校生の3つのグループに分かれた年代別子ども会議の場で内容を説明している。保護者への説明は未実施のため、子どもの自立支援計画作成時などで説明していく必要があると捉えているが、難しいケースもあり、今後の課題としている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	第三者 評価結果
		a

<input type="checkbox"/>	組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/>	定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/>	評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

養育・支援の質の向上に向け、職員研修に力を入れ、職員の育成に取り組んでいる。階層別や子どもの養育、愛着関係、性教育などの外部研修に、職員ができるだけ参加できるように、職員会議で働きかけている。内部研修も積極的に行う他、今年度より、「目標管理シート」を活用して、職員の養育・支援の質の向上に取り組んでいる。「不適切な対応の自己チェックリスト」も、継続して活用している。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
<input type="checkbox"/>	評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/>	職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/>	評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/>	改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

評価の結果は会議などで共有している。昨年度、改善委員会で内容を検討したが、具体的な改善策はこれからになる。子どもへの支援の方法を共有したことから、12月の職員会議でグループワークを行い、課題に対する改善策をまとめていく予定である。それをもとに、支援マニュアルなどを変更していきたいと考えている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1)	施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

今年度より、園長の職を担っている。「職務分掌表」を整え、園長の役割と責任を明確にしている。また、マニュアル類も、内容をより詳しくしている。各会議にはできるだけ参加し、会議の中で園長の考えを表明している。子どもとの関わりも大切にしているが、なかなか時間が取れない現実がある。園長不在時の権限は主任に委譲しているが、直接連絡を受けることもある。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○

	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○
--	---	---

【コメント】

施設長研修などを通し、児童福祉法の改正など、遵守すべき法令を正しく理解する取り組みを進めている。法令などに関する職員の関心は高くはないが、職員会議の場で、状況を説明するよう努めている。子どもの人権に配慮する取り組みとして、ホーム長会議や職員会議の場で、「虐待、加害ゼロ5原則」の唱和を継続して行っている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	<p>12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。</p> <p>(社会的養護共通)</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。</p>	a
	<input type="checkbox"/>	○
	<input type="checkbox"/>	○
	<input type="checkbox"/>	○
	<input type="checkbox"/>	○
	<input type="checkbox"/>	○

【コメント】

職員の意見を反映する取り組みとして、職員会議の場で、園長がビジョンを示し、それに基づいて職員がグループワークで意見を出している。保護者の面会のない子どももいることから、保護者面会時の持ち込み品について職員の意見をまとめ、保護者をお願いしたりしている。年代別子ども会議には、主任や副主任、ユニットの職員が参加して、子どもたちの声を聞いている。また、ユニットの職員が、年1回、一対一で子どもにヒアリングを行っている。ギター教室や煎茶、日本舞踊、殺陣などの文化活動は、現在も積極的に開催し、月曜日から金曜日は何かの活動で予定がうまっている。

②	<p>13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	a
	<input type="checkbox"/>	○
	<input type="checkbox"/>	○
	<input type="checkbox"/>	○

【コメント】

副主任以上が参加する運営会議に、ユニットの職員が参加する機会を設け、職員の声を聞いている。働きやすい職場環境作りとして、職員が休憩を取りづらい状況を変えるため、休憩表を作成している。また、スーパーバイザーの薦めにより、「児童養護とは」などの書籍を職員に配布して、共通の意識を形成する取り組みを行っている。職員の残業時間が多いことから、運営会議で検討して、業務量の問題ではなく、意識、スキルの問題として捉え、主任が状況を確認している。以前使用していた「スキルアップノート」を「目標管理シート」に変え、職員の養育・支援の質の向上に取り組んでいる。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	<p>14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/>計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p>	b
	<input type="checkbox"/>	○
	<input type="checkbox"/>	○

<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="checkbox"/>
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員の採用は、園長と主任で対応している。新規の職員採用は厳しい状況にあり、社会的養護総合情報サイト「チャイボラ」などを活用して、人材の確保に取り組み、オンラインの職場説明会に参加している。また、人材の育成についても、今年度より力を入れて取り組んでいる。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格などに関する基準)は明示しておらず、人事考課も取り入れていない。期待する職員像は、事業計画書に目指すべき施設職員像として示し、職員に周知している。「目標管理シート」は、今年度8月から取り組んだことから、11月に園長との面談を予定している。次年度は年度初めに目標を立て、9月頃に振り返りを行い、園長との面談を通して次年度につなげていきたいと考えている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

「目標管理シート」に関する面談は園長が担当し、日頃の職員の面談は主任が担当している。また、職員のメンタルヘルスに関しても、園長と主任が対応している。職員の有給休暇の取得は主任が管理しており、現在、有給休暇の取得については特に問題は発生していない。職員の定着、人材確保に取り組んでいるが、現実には厳しい状況にある。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="checkbox"/>

	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

今年度より、「目標管理シート」を用いて職員一人ひとりの育成に取り組んでいる。事業計画書に期待する職員像を明記し、目指すべき施設職員像を示している。衣食住を通じた細かなお世話が、子どもの安心感・信頼感につながることを理解し実践する職員、子どもと共にあり、子どもと体験や感情を共有する職員、子どもが「この人なら自分のことをわかってくれる」と思える職員などを示している。「目標管理シート」は、今年度途中からの取り組みであり、次年度は中間面接、年度末面接などにつなげていきたいと考えている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

個々の職員の研修計画を園長が立て、外部研修を誰が受講するか園長が決めている。また、内部研修はホーム長と副主任が企画して、人材の育成に取り組んでいる。内部研修は、月2回開催する職員会議の中で行っている。外部研修に参加した職員は、職員会議の場で内容を報告している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

外部研修の情報を職員に周知し、職員の経験年数や職層を考慮して参加者を決めている。コロナ禍では、zoomによる研修参加が多かったが、年1~2回は職員が集合研修に参加できるよう振り分けている。外部研修に参加した職員は、報告書を提出し、職員会議で内容を報告している。新人職員は2~3ヶ月は他の職員と一緒に職務につくようにする他、入職1年目の職員は、チャイボラの新人研修を受講している。スーパーバイザーも配置している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	

実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。

【コメント】

主任を担当として、実習生を受け入れている。また、実習生向けの冊子を用意して、受け入れ前にオリエンテーションを行っている。年間に20人以上の実習生の受け入れを行っている。対応する職員の負担も大きいですが、皆、真剣に関わっている。後進の指導を使命として捉え、今後も積極的に実習生の受け入れを行っていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①

21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。

a

ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。

施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。

第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。

法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。

地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。

【コメント】

ホームページを活用して、運営の透明性を確保するための情報を公開している。年1回、広報誌「手まり学園だより」を発行し、関係機関や寄付者、ボランティアなどに送っている。町内会に加入し、主任を中心に職員が集まりに参加している。町の行事に参加したり、園の行事に地域の方々を招き、地域との関係作りに努めている。

②

22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。

a

施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。

施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。

施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。

外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。

【コメント】

「職務分担表」を整備して、事務や経理などの権限や役割を定めている。また、定期的に監査を行い、指摘事項があれば改善している。経営事務所や社会保険労務士など、外部の専門家の意見も聞いている。経理関係などのルールは、現場の職員にとって、どうしても理解が不十分なため、今後は周知に努めていきたいと考えている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。

第三者
評価結果

①

23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。

b

地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。

子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。

施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。

子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。

(児童養護施設)

学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。

【コメント】

新型コロナウイルスが落ち着いてきたことから、今年度より、地域の子どもたちに園庭を開放している。園庭には危険防止でクッションを敷いたグラウンドや遊具があり、地域の子どもたちや学校の友だちが多く訪れている。また、登校班の引率時には、職員も地域の子どもたちと顔を合わせる機会が多くある。月1回のユニットごとの自由献立では、職員と一緒に、地域のお店に子どもたちが買物に出かけている。地域主催の催し物に参加する他、サッカーチームに入っている子どももいる。訪問調査時、園庭で20人近くの子どもが遊んでいたが、ほとんどが地域の子どもとのことであった。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【コメント】

主任を窓口として、ボランティアの受け入れを行っている。大学生が学習や遊びのボランティアで訪れる他、地域の方が雑草取りのボランティアを行っている。また、米軍の人たちの慈善活動も受け入れている。ボランティア向けの受け入れマニュアルを整備して、受け入れ前に守秘義務などの説明を行っている。各文化活動、教室は、有償ではあるが、ボランティアの先生方の指導を受けている。今後も希望があれば、ボランティアの受け入れをすすめていく予定である。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

自立支援担当や里親については、定期的な連絡会があり、担当の職員が参加している。また、所管の児童相談所や小・中学校とは、毎年、連絡会を開催する他、随時連携している。地域の消防署や警察とは、防災訓練や子どもの無断外出の折りなどに協力を仰いでいる。小さい子どもの通院には職員が付き添い、病院との関係作りにも努めている。地域との関係作りは、これからも強化できるよう取り組んでいく予定である。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

町内会の集まりに参加して、地域のニーズの把握に努めている。地域の規模が大きいので、顔が見える関係が作りやすい。また、古くからの家が多く、子どもの問題だけでなく、高齢化も深刻な状況にある。計画している子ども食堂には、地域の高齢者も招き、子ども大人食堂にしていきたいと考えている。10月には、地域の小学校のイベントに、子どもたちが参加している。地域との触れ合いは、今後の取り組みのひとつと捉えている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

近隣の公立施設・野外センターの紅葉祭りが11月にあり、中・高校生の希望で、牛串のブースを出した。また、園庭を地域の子どもたちに開放し、多くの子どもが遊んでいる。災害発生に備え、防災備品を備蓄している。子どもたち用に非常食や飲料水も3日分備えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

養育・支援に対する職員としての基本的な姿勢は、理念や養育指針に明示している。職員が子どもを尊重することの共通認識を持ち、常に取り組んでいるが、さらに水準を高めるため、職員の育成や研修会の開催などにも注力している。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

プライバシー保護についてマニュアルを整備し、子ども一人ひとりの生活の場にふさわしい環境を整えている。子どもたちの居室は、原則個室とし、プライベート空間を設けている。また、人に聞かれたくない内容の話は、場所に配慮して、プライバシーの保護に努めている。異性職員の支援範囲なども明確にしている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

見学の希望があれば、受け入れを行っている。法人の理念や養育指針、養育・支援の内容や施設の特性などを紹介した資料により、見学者に情報を提供している。資料の内容は適宜見直しを行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

養育・支援の開始にあたっては、手まり学園のしおりなどを使い、子どもが理解できるように丁寧に説明している。子どもや保護者が内容を確認してから、入園の同意を得て書面に残している。説明に関しては、児童相談所に小まめに連絡を取り、協力を求めることもある。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

今年度より、自立支援担当職員を配置し、アフターケアに力を入れている。転校先など関係機関とのカンファレンスに参加して、情報の共有を行っている。退所後は、基本的には自立支援担当職員が連絡を取り、こどもとの関係をつなげるようにしている。電話や手紙、手まり学園のLINE配信などで、定期的に行事の案内などを連絡している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
---	-------------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ユニットでの子ども会議や、小学校低学年、小学校高学年、中・高校生の年代別子ども会議の場を、月1回設けている。子ども会議などで子どもの満足度を確認し、子どもの安心につながるようにしている。子ども会議は、子どもたちが自分たちのことを考え、話し合う場になっている。子どもへの個別の相談面接や聞き取りも定期的に行っている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
<input type="checkbox"/>	養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

苦情解決の体制(苦情解決責任者や苦情受付担当者、第三者委員の設置)を整え、職員全体で取り組んでいる。子どもや保護者などから苦情があった場合は、その都度個々に対応している。意見箱を設置し、子どもたちは権利ノートを持っているが、職員との会話で解決できている状況にある。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
<input type="checkbox"/>	子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちの意見や相談は、毎月定期的で開催するユニットの子ども会議や年代別子ども会議の場で把握している。子どもたち個々の生活を理解し、子どもの目線に合わせて話を傾聴し、相談や意見を述べやすい環境作りにかけている。子どもからの発信の内容は、職員間で共有している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
<input type="checkbox"/>	職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちの相談や意見については、迅速に対応するようにしている。意見箱は設置しているが、子どもたちの相談や意見は直接言うことが多く、意見箱の利用は少ない。今後は、意見箱の活用を、子どもたちにすすめていきたいと考えている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果
① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

リスクマネジメントのマニュアルを整備し、各種会議の場で周知を図っている。また、ヒヤリハットに関しては、日々、報告している。今後は、安全確保・事故防止に関する研修会を開催して、マニュアルの見直しを行い、職員一人ひとりの安全確保・事故防止の意識を高めることを目指している。

② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

感染症予防に関して、職員間で適切な対応を行っている。危機管理が薄く、感染症予防の知識が身につけていない子どもには、随時声かけで対応している。今後は、感染症予防の勉強会などを予定している。新型コロナウイルスの蔓延以降、感染防止対策として特別な部屋を新設している。

③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>

【コメント】

月1回、災害を想定して防災訓練を実施している。施設外にいる子どもの安否確認は、幼稚園や学校と、連絡体制や協力体制を整えている。高校生以上の子どもは携帯電話を所持しているので、安否確認の手段として役立てている。防災訓練や危機意識については、職員に災害マニュアルの周知、徹底を働きかけていきたいと考えている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

養育・支援の標準的な実施方法は、職務マニュアルに基づき、職員に周知している。職員には「目標管理シート」を配布し、それに基づいて面談を行い、養育・支援のあり方を振り返る機会を作っている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

月2回、ユニットごとの会議やホーム長会議を定期的に行い、養育・支援の実施方法を確認している。モニタリングに関して力を入れ、標準的な実施方法に基づいて支援しているか確認する仕組みを作っていきたいと考えている。日常業務に追われがちであるので、どのように取り組みを進めていくか、工夫していく必要があると捉えている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		第三者 評価結果
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

子どもたちに対し、アセスメントに基づいた自立支援計画を策定している。策定にあたっては、自立支援の考え方を、子どもたちのスキルを重視した支援から、本人の内面的な部分や将来への希望にそった形に変更している。また、子どもを交えた話し合いを実施して、子どもの意向に沿った計画となるよう、取り組んでいく予定である。今後もアセスメントに関する職員の技術向上を目指していきたい。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

子どもたちの自立支援計画は、定期的に評価、見直しを行っている。研修などを通じて、職員の自立支援計画の策定やモニタリングに関してのスキルを高めていくよう努めている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子どもの養育・支援の実施状況の記録は、統一した記録様式を用いて、職員間で情報を共有できるようにしている。記録類を随時閲覧し、養育・支援のあり方を振り返ることができるようにしている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

個人情報保護規程を整備して、職員は規程を遵守している。記録類は紙ベースのもの、パソコンに入力されたものがあるが、それぞれ管理方法を決めている。個人情報保護に関する保護者への説明は、児童相談所と連携を取りながら対応している。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見のための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	
<p>権利擁護を規定したマニュアルは全職員が所持している。年度初めの会議で、スーパーバイザーからの具体的な話や、園内研修で内容を周知している。日常生活の中で権利侵害が発生しないように、2つのユニットの間に職員の部屋があり、大きな音や声が聞こえた時などは、隣のユニット職員が「なにかあったの？」と声掛けをして話を聞き、複数の職員で対応している。今年度の目標として、支援計画策定時の面接以外に、夏休み後と冬休み後に子どもと一対一で話を聞く機会を設けている。子どもたちの困りごとや希望を聴き、子どもたちが思っていることを言葉で伝えられる機会を作っている。</p>	
(2) 権利について理解を促す取組	
<p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	
<p>入所時には、児童相談所のケースワーカーが「権利ノート」の説明をして、子どもに渡している。その後も、ケースワーカーとの面接時には、ノートをもとに、権利について意識できるようにしている。また、年代別子ども会議の中でも、権利をテーマにして、話し合いを行っている。今年度は「思っていることを言葉にする」ことを目標にしている。自分の思いを誰かに伝えることにより、相談ができるという安心感につながっている。</p>	
(3) 生き立ちを振り返る取組	
<p>① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

中学入学時や就職時は、自分の生い立ちを考えさせられる時期でもある。今までは個人のライフステージをタブー視していたところがあったが、職員の中から、自分の生い立ちを知ることは大事なことという意見が出たことがきっかけで、園の方針として、生い立ちを振り返る支援に取り組んでいる。子どもの状況によって、児童相談所のケースワーカーから、両親に話をしてもらえる状態であれば両親から、園の職員からなど、連携を取りながら慎重に伝えている。卒園していく子どもを見て「自分はなぜここにいるのか」という疑問を感じた時などをきっかけに、話し合いを行っている。入所してからの写真をアルバムで見ながら、子どもたちは振り返りを楽しんでいる。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

就業規程に子どもへの関わりについての記載があり、職員は不適切な関わりを常に意識している。意見箱が設置されているが、利用はあまりない。子どもからは、口頭で希望を言うことが多い。2つのユニットの間に職員の部屋があり、隣のユニットから大きな音や声が出た場合は、必ずその場に行き「どうしたの?」と声をかけ、何があったのかを複数の職員で対応し、不適切な関わりを未然に防いでいる。男性の職員が女子に話をする時の距離や態度、どの程度まで許容していくかなど、不適切な関わりにつながらないように、会議の中で話し合いを行っている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもその生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所から入所依頼があると、園長、主任、ホーム長により検討会議を開催している。児童相談所のケースワーカーの説明を受け、本人に見学に来てもらい、園での生活や部屋などを実際に見てもらっている。子どもの趣味や興味のあることを聞き、入所が決まると、その子どもの好きそうな衣類、茶碗、箸など日用品をすべて買い揃えている。同じユニットの子どもには、新しい仲間が入ることを1、2日前に話し、当日は子どもの好きなメニューを用意して迎え入れている。厨房で手作りおやつなどを準備し、喜んでもらえるよう工夫している。3月の卒業時に退園する子どもには、手紙を書いたり、ケーキでお祝いをして送り出し、いつでも遊びに来ることができることを伝えている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

年齢の低い子どもは、ネグレクトによる入所が多いため、生活経験がない子どもが多い。食事や入浴、睡眠など、基本的な生活スキルの獲得を、一人ひとりの状況に合わせて支援している。中学生になると、小遣い帳にレシートを貼って、小遣いを自分で管理している。月の小遣いの半分は好きなことに使い、残りは将来のために貯金して、自分で管理している。中学生は高校を選択する時期を迎える。高校生になると、卒業を見据え、園内の宿泊施設を使って一人暮らしを体験し、自分でお弁当を作っている。卒園後は、自立支援担当職員や元担当職員と連絡を取り、園の行事に参加したりしている。一人暮らしの子どもには、時々園から食料品を送ったり、園に遊びに来た時に持たせたりしている。音信不通だった子どもがホームページを見て、遊びに来てくれたりすることもある。クリスマスに、子どもたちにケーキを買ってきてくれる卒園生もいる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

園の養育指針に「子どもの思いを聴く、受け止め、理解します」を置き、職員はまずは子どもの思いを肯定し、なぜそうなのかを聞く姿勢をとっている。就寝時には「すぐ寝なさい」ではなく、あと30分で終わるからテレビを見たいという時には、柔軟に対応している。また、暴力があった場合は、暴力はいけないことを話すが、何が嫌で暴力を振ったのか、何があったのかを聴き取り、原因を言語化して、相手の子どもと話し合っ解決している。子どもたちが感情をコントロールできるよう関わっている。その時々で、子どもの心に何が起こっているかを理解するよう努めている。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○

<input type="checkbox"/>	□基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

栄養士がバランスの良い献立を作成し、厨房で朝食や昼のお弁当を作っている。各ユニットに食事を運び、中・高校生は厨房で作ってくれたお弁当をもって通学している。土日の朝食と昼食は、職員と一緒に、ユニット内で調理している。各部屋は個室なので、落ち着いた雰囲気です眠っている。年少の子どもは寝付くまで、職員が寄り添っている。夜間は、職員が巡回して安全を確認している。夜尿などがあった場合は、他の子どもにはわからないよう配慮し、清潔にして寝てもらっている。寝る前はベッドわきで話を聞き、子どもとの触れ合いをできるだけ多くするようにしている。

③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/>	□快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

小学生（低学年・高学年）、中・高校生と、年代別に子ども会議を開催し、子どもたちがそれぞれの課題に対し、自分たちで考えている。ユニットでレクリエーションをやりたい、映画を見に行きたい、ミカン狩りに行きたいなど、子どもたちが話し合い、それを受けて実施できるようにしている。ケンカをした、物を壊したなど、失敗をしてしまった時は、「何があったの？」「どうしたの？」と話を聞き、原因を言葉で表現するよう促し、その時の自分の気持ちの整理を行い、感情のコントロールができるのを見守っている。幼稚園の子どもは、ユニットの大きい子どもの真似をして、片付けなどが自然にできるようになっている。職員はできたことをほめながら見守っている。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
<input type="checkbox"/>	□施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子どもの学びや遊びを保障するための、資源（専門機関やボランティア等）が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

3～4歳の子どもは、幼保連携型認定こども園に通っている。小学生は全員帰宅してすぐに公文式学習を行い、高校受験のためバスで塾に通っている中学生もいる。学習ボランティアの活動は、今はない。中・高校生は部活を行っている子どもが多い。ユニット内に年齢に応じた本を置き、図書室には様々な本を揃えている。園庭が広く、滑り台などのついた複合遊具や砂場、サッカーのコートなどがある。また園内では文化活動として、煎茶教室や日本舞踊、殺陣教室、ギター教室、英語教室、手芸教室、美術教室など、たくさんの教室が外部の先生や職員の指導により行われている。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上で必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

手まり学園の3原則として、①きちんと履物をそろえ、②明るくご挨拶をして、③きれいにおそうじしようを定め、子どもたちは日々、3原則を守って生活している。自分のことを自分でやる習慣は、小さい子どもは大きい子どもの行動を見て自然に覚えている。生活の中の決まりごとは、話し合いで決めている。文化教室の先生方や、アルバイト先での経験から、社会の人たちとの関わり、礼儀や言葉使いなどを身に付けている。昨年度から、地域の方たちに手まり学園を知ってもらうため、園庭の開放や地域の行事に積極的に参加して、社会の中での経験を積んでいる。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

「みんなで一緒に食事」をモットーに、コロナ前はホールで、コロナ禍では、一時は各ユニットで一方向を向いた黙食であったが、現在はユニットごとにコミュニケーションを取りながら楽しんで食事を摂っている。残食の状況や子ども会議での希望を聞き、給食会議でメニューを検討している。第3日曜日は自由献立とし、各ユニットで、食べたいメニューを考え、買物、調理、片付けを行っている。大きい子どもは直接調理をしたり、小さい子どもはできることを手伝いながら、皆で行っている。部活やアルバイトで遅くなった時は、ユニットで温め直して食事を提供している。アレルギーや疾患のため、食事制限のある子どもは、現在いない。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>

- 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。
- 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。

【コメント】

入所時には、衣類が不足しているケースが多いので、衣類や生活用品一式は、子どもの好みを聞き、職員が購入している。入所後は、職員と一緒に買物に行き、子どもが好きな物を自分で選んでいる。衣類の整理は、小さい子どもは職員と一緒にいき、大きい子どもは自分でタンスの中を整理している。普段の生活衣類は十分にあり、清潔な状態を保っている。入学式や卒業式、七五三などの晴れ着は園で用意して、子どもたちが正装をして行事に参加している。訪問調査時、子どもたちのアルバムで、嬉しそうなお写真を多く見ることができた。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

2つのユニットがひとつの棟になっており、八角屋根の大ホールを中心に3つの棟がある。それぞれが小舎制をとり、同じ棟のユニットは、行き来ができるようになっている。ひとつのユニットに3～18歳までの子どもが生活を送っている。居室には机やベッドがあり、個室のため、それぞれが好みのぬいぐるみを置いたり、アイドルのポスターを貼って、安心できる自分の空間を作っている。土曜日には各自居室の片付けを行い、リビングやトイレ、浴室は職員が清掃している。営繕担当の職員もおり、故障箇所はすぐに対応している。整理、整頓などの4Sに配慮している。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

日々の生活の中で、食事の状態や顔色などから、子どもたちの健康状態を把握している。近くにある内科のかかりつけ医と連携し、健康診断や予防接種は園で実施している。定期的にメンタルクリニックに通院している子どももいる。薬は職員室内の鍵のかかる引き出しに保管し、食事の際に手渡し、服用後の空になった袋を職員に手渡してもらっている。職員は飲んだことを確認して、袋を破棄している。感染症マニュアルはあるが、ノロウイルスに関しては未整備のため、改訂が必要と考えている。また職員研修もさらに充実していかなければいけないと考えている。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/>	性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

性教育委員会が中心になり、幼児や小学校低学年の子どもにはプライベートゾーンなどの話を、小学校高学年や中学生には身体の変化について話をしている。先月の職員勉強会の中では、生活場面の中での職員と子どもの距離について話し合った。子どもから職員に近寄ってきて、あまりにもべったりの関係になってしまうのはどうなのかという意見について話し合った。男性職員は女の子には少し距離を置いて関わり、できるだけ女性職員が関わっているが、職員の男女比にもより、難しい面もある。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/>	施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮している。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの不適応行動の水面下で、何が起きているのかを確認するために、「どうしたの」「何があったの」と職員は必ず声をかけている。大きな音が苦手な子どもが突然ドアをバタンと閉めて出ていったりする時には、職員はその子どもからどのようなことがあったのかを聴き取り、嫌なことがあった時どうしたらよいかを一緒に考えている。子どもたちから、うれしかったこと、考えたこと、嫌だったことなどを伝えてくれることが多くなってきている。子どもの不適応行動の裏にどんな思いがあるのかを、全職員が共有し受け止めていく姿勢を持つようにしている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/>	問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちは、年代別子ども会議の中で、暴言や暴力について取り上げ、暴力のない施設にしようと話し合いを行っている。職員は常に「どうしたの?」「何があったの?」と声かけを行っており、子どもの声を聴くようにしている。以前は、誰ちゃんが誰ちゃんにこんなことしていたなど、他の子どもが言いに来ていたが、今は誰ちゃんこんなことがあったと、自分のことを言いに来てくれることが多くなった。障害のある子どもは些細なことでトラブルになることはあるが、子どもたちは差別することなく一緒に生活している。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
<input type="checkbox"/>	心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	
<input type="checkbox"/>	職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/>	心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
<input type="checkbox"/>	児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

児童相談所の心理士やケースワーカーが心理的ケアが必要な子どもとの面接を行っている。措置された時からの関わりの中で定期的に面接を行い、子どもの話を聞きながら変化を確認している。児童相談所の心理士が来園して、遊戯療法などを行っている。心理的に不安定な子どもは、メンタルクリニックに定期的に通い、服薬での治療を行っている。心理的ケアについては、児童相談所や医師などの外部に頼っているところである。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
<input type="checkbox"/>	学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
<input type="checkbox"/>	学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
<input type="checkbox"/>	忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	
<input type="checkbox"/>	障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

園内に学習室があるが、コロナ禍では密を避けるため、小学生は各ユニットで公文式学習を行っている。中・高校生もユニット内で宿題などを行っている。中学生はバスで塾に通っている子どももいる。特別支援級に通っている子どももいるが、その他に気になる子どもは多く、学校と連絡を取り合いながら支援している。現在は学習ボランティアの活動はない。中・高校生の勉強などは、職員では対応できない部分もあり、課題としている。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/>	進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
<input type="checkbox"/>	進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
<input type="checkbox"/>	就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
<input type="checkbox"/>	進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
<input type="checkbox"/>	学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/>	高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
<input type="checkbox"/>	高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	

【コメント】

自立支援担当職員やユニットの職員が中心になり、進学を希望する子どもに情報を提供している。中学生になると、どこの高校に行きたいか、高校になると、卒園後就職か進学をするかを相談しながら決めている。児童相談所や学校と連携を取りながら、大学や専門学校などへの進学を希望する子どもには、生活の場や金銭面など、生活の仕方について具体的な話し合いを行いながら、本人に決めてもらうようにしている。進学については、課題の多い子どもの支援の難しさを感じている。子どもの最善の利益に結び付いているか、職員同士話し合いを行っている。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

職場体験や職場実習は行っていない。高校生のアルバイトは、近隣のレストランやスーパーマーケットなどで積極的に行っている。現在は高校生2人がアルバイトを行っている。社会に出て生活を送るためには、職場体験やアルバイトは貴重な経験となるため、今後は、積極的に取り組む必要があると捉えている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長とともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

半数くらいの子どもは、家族の面会がある。面会や外出などを通し、専門職やユニットの職員が、家族との関係を深めている。児童相談所と連携を取りながら、授業参観や運動会などの学校行事のお知らせを家族に渡し、家族との関係作りに取り組んでいる。家族からの相談は、児童相談所に行くことが多い。児童相談所が調整し、家族との面会を園で行うこともある。一方、家族の面会のない子どもへの支援に配慮するようにしている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

児童相談所と連携を取りながら、合同ミーティングやカンファレンスにより、家族と定期的な面会や外出の機会を持てるようにしている。今までに家庭復帰した子どもが3人いるが、問題なく生活を送っている。今年も、引き取りに向け働きかけている子どもが3人いる。里親の具体的な話も進んでいる。今後も専門職を中心に、さらに努力をしていきたいと考えている。